

礼拝説教要旨

2010年7月11日

赤江弘之牧師

『罪のゆるしのしるし』

マタイ26：26～29、Iコリント1：23～28

はじめに

1. 神の恵みの重要さと現実としての確かさ

「契約の血です」28節

そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」

(出エジプト24：8)

「これは神があなたがたに対して立てられた契約の血である」と言いました。

(ヘブル9：20)

しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事がらの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。・・・
こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。

(ヘブル9：11、12、15)

「これはわたしのからだです」26節

ルターのことば—キリストの遺言

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

(ヘブル9：27) 9:16,17

彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」

(ルカ22：9) 22:19

これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

(マタイ26：28)

2. 神の恵みに対する信仰の現実的応答

「わたしの父の御国」29節

「キリストのからだ」

ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すこととなります。ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

(Iコリント11：26～28)

ツウィングリのことば

むすび

キリストの弟子として生きる

ボンヘッファーのことば